

令和2年度指定管理者評価表(令和3年度実施)

施設名	国崎クリーンセンター啓発施設
施設の設置目的	ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
指定管理者	株式会社トータルメディア開発研究所
選定方法及び指定期間	選定方法:公募 指定期間:平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
評価対象期間	令和2年4月1日から令和3年3月31日まで
指定管理委託料(令和2年度)	67,281千円

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
管理体制等に関する項目	基本的なサービスの提供	施設提供のための適正な人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 環境啓発活動に根ざした地域連携に努め、第3期指定管理業務計画に則し、適切な人員配置を行った。 適材適所により、ワークショップや各種啓発業務、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた啓発活動に努めた。 経験値の高い非常勤を配置することにより、計画通りの業務を遂行すると共に、住民目線でのサービス提供、臨機応変な接遇に努めている。 専従1名で負担がきつかった里山保全活動に関しては、R2年度よりゆめほたる里山クラブの中から2名を選出し、リーダーとして事前準備や連絡、備品メンテナンス、情報共有など里山担当のサポートを担っていただいている。 チームとしての業務遂行をベースとし、日報への記載、朝礼、2週間に1回の定例会議などにより、日々情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務計画に則した適切な人員配置を行い、また、個々のキャリアや能力を活かした配置となっている。 職員全体の経験年数が長くなることで、円滑で安定的な事業運営等が実施できている。 	<p>令和3年10月11日に評価協議会を開催し、指定管理者及び組合に対してヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。</p> <p>B</p> <p>【主な質疑】</p> <p>指定管理者への質問</p>	
		指揮命令系統の確立	<ul style="list-style-type: none"> 組織として指揮命令系統が確立されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制・指揮命令系統等を定め、確実な運用を行っている。 本社とも月2回の定例会の実施、日常的な業務支援などの連携を実施している。 本社運営の他施設の指定管理業務で得たノウハウなどを共有し、運営に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制、指揮命令系統に従い、運用が出来ている。 <p>B</p>	<p>Q. 本社との月2回の定例会議はどのようなことを話し合っているのか。</p> <p>B</p>
		職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画書に則した職員研修が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でのオンライン化や利用目的の多様化が進む中、ブログでの分かりやすい情報発信や新規講座への問い合わせ対応へ向けて、地域の協力を得て研修会(3/19知明湖キャンプ場での木質バイオマス設備導入研修会)を企画。地域から新たに人材開拓した若手クリエイターやエンジニアを招き、動画研修やプログラミング研修会を実施した。 実務研修についてはOJTにより随時実施している。 オンラインを含む各種研修を受講し、コロナ禍に於いても実務能力向上に努めた。本年度の研修受講は、研修延べ35名、研究会延べ14名(年報P31参照)。また、里山保全活動においては、発生材の利活用や外来種の扱いなどについて理解を深め、活動に活かしている。 廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会の事務局を担う関係から、全国の環境学習施設と環境学習に関わる情報を交換(オンライン)しあい、良質な運営・啓発活動に反映している。他の環境学習施設におけるコロナ禍での対策や実施事例を参考にした。 法令理解、個人情報保護、情報セキュリティ等について、本社社員を招いての研修(オンライン含む)を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境啓発に関する施設見学や研修会を通じ、住民意識向上や環境教育の普及に役立てるとともに、様々な団体と今後繋がる交流を図ることで、幅広い情報収集も可能にしている。 個々が出席する研修等で得られた情報等を報告書や資料を通じて職員全体で情報共有し、質疑応答も行いながら、事業運営等に活かしている。 <p>B</p>	<p>A. 事業内容について、本社統括技術部と意見交換を行っている。時には本社からの知見なども貰っている。</p> <p>Q. 本社からの日常的な業務支援にはどのようなものがあるのか。</p> <p>B</p> <p>A. 経理では、大阪支社や東京本社と連携することにより複数によるチェックが行われ問題が発生すれば連絡を取り合っている。また、コロナ対策や情報セキュリティなどの情報を提供してもらっている。</p> <p>Q. 自然災害などの緊急時に、例えば国崎大橋が通行出来ないときに代わりの手段はあるのか。</p> <p>B</p>
		利用許可、案内等の対応と接遇	<ul style="list-style-type: none"> 利用許可、案内等が適切かつ迅速である。 業務や接遇について、多くの苦情を受けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設組合の規程に則した業務を遂行しており、業務内容に関しては概ね良好である。 電話・WEB・FAXでの受付等の予約事務では、利用者の立場に立った適切な対応を行っている。 申請書類等については簿冊にて適切に記録、整理、保管している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用許可や案内等を適切に対応している。 申請書類等を適切に簿冊管理及び整理し、保管していることを確認した。 <p>B</p>	<p>A. 特定のルートは定めていないが、幾つかあるルートを迂回しながら国崎クリーンセンターまで通うようにしている。</p> <p>また、他の緊急時の対応として、施設内で火災が発生し煙が出た場合は、緊急対応マニュアルに沿って来客がいらないかチェックを行うようにしている。</p>
		苦情等への対応と報告	<ul style="list-style-type: none"> 苦情対応が適切になされている。 苦情について、記録・報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情等発生と同時に施設組合へ報告すると共に、業務日報へ記載している。また、苦情等の発生時には適切な対応を行っている。 窓口、電話、電子メールなど、利用者から広く意見を受け入れる体制を整えている。 ドッグラン利用者における予約時間の間違い事案が発生した。この対応については、利用者(会員全員)に注意喚起を行うと共に、電話予約の際にはメモをとっていただくように促した。また、窓口における口頭予約では予約内容のメモをお渡しするなど、二度とこのようなミスが起きない対策を施し、再発防止に努めた。 3/7実施予定のファミリーフリーマーケットが、コロナ禍の影響で中止となったが、中止となったことを知らずに「シャトルバスが来ない」と山下駅から1件の電話あったが、丁寧に説明を行いご納得いただいた。今後催事中止の場合には、事前告知だけでなく当日にもHP上にも再掲載し、サービス向上に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施後に受講者や参加者、講師から意見等をいただき、幅広く意見を受け入れる体制を継続している。 苦情が発生した時は、個別に丁寧な対応を行うことにより大きなトラブルにならないように努めている。 <p>B</p>	
		利用者の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保対策を徹底している。 職員に指導徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での施設運営に当たっては、消毒作業などを定型業務に組み込み、利用者の安全確保に努めている。共用部の消毒を毎朝及び使用後に実施、啓発施設入口の自動扉の開放や利用工房の窓の開放による換気の徹底、各部屋の定員を半数以下とし、座席も密にならない様に設えるなど、予防に努めている。さらに利用者にも、入館時のマスク着用と検温、来館者カード記載への協力をお願いしている。 安全管理マニュアルを作成し職員全員に徹底している。 全職員が消防署の普通救命講習(AED研修)を受講している。 万一来館者、指定管理者賠償責任保険”、”里山保全における指定管理者自賠責対象外地への保険”(ア)兵庫県ボランティア保険活動等行事務用保険、(イ)森林ボランティア保険)、“ドローン保険”に加入している。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として、様々な対策が施されており、利用者が安心して施設を利用できるように努めている。 安全管理マニュアルに基づき、指導が行われていることを確認した。 組合主催の普通救命救命講習を職員が順に受講していることを確認。 <p>B</p>	
緊急体制・マニュアル・研修の対応	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時に迅速に対応できるように、責任者、組織が整備されている。 緊急時に、組合に迅速に連絡・報告し、指示を受けるための連絡網ができています。 職員の対応マニュアルがあり、研修・訓練が定期的または必要に応じて実施されている。 実際に緊急事態が発生した際、適切に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時/緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備し、毎年更新している。 常勤全職員が甲種防火管理者及び普通救命講習Ⅱクラスを修了している。基本は、施設組合の「不適合事象対応マニュアル」に則った対応を行い、定期訓練・安全講習に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルに基づき、指導が行われていることを確認するとともに、緊急連絡網や体制が整備されていることを確認した。 <p>B</p>			

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価		
管理体制等に関する項目	施設の管理	施設の点検・保守管理	・協定等で定める範囲の施設について、適切な管理がなされている。 ・定期的に安全確認し、組合に報告されている。	・日常点検・定期点検及び安全確認を適切に実施し、日報及び火元責任者自主点検表にて報告している。 ・点検結果は施設組合に報告している。 ・施設全体の経年劣化も含め、さらなる安全管理を徹底し、安全管理につとめている。	・適切な管理がされていることを確認した。	【主な意見】 ・現在の職員が代わることによって業務が滞ることが無いよう、次世代に繋げられるような職員の体制づくりを考えていかなければならないのではないかと。 以上、各評価観点にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答を行い確認したところ、指定管理者及び所管課評価のとおりとし、総合的な評価指標は「B」に該当すると判断する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">評価：B</div>	
		個人情報保護	・指定管理者が管理する個人情報について、漏洩、紛失等の事故防止のため、管理体制を整えている。 ・指定管理者が管理する個人情報について目的外利用していない。	・個人情報を含む書類は厳重に施錠保管するなど、基本協定書記載の個人情報取扱特記事項に則り、適切に管理している。 ・不要となった個人情報記載書類については、民間業者の書類溶融サービスを利用して廃棄している。 ・情報セキュリティポリシーを策定している。 ・PC内の電子データについては、外部記録装置(USBメモリなど)を用いた事務所外への持ち出しを禁止している。 ・全職員のPCにセキュリティソフトをインストールしている。	・個人情報保護に係る管理体制(キャビネット施錠等)が整えられていることを確認した。 ・情報セキュリティポリシーを策定し、継続的に運用されていることを確認した。 ・不要となった個人情報書類等は、年数回の溶融サービスで、適切に廃棄処分していることを確認した。		B
		文書管理	・文書・帳簿類が適正に作成・管理されている。	・報告書等文書・帳票類に関して、期日どおり作成しており、事務所内及び本社にて保管・管理している。 ・事務所内の書類については、種類別、年度別に簿冊管理している。	・文書、帳簿類が適切に保管されていることを確認した。		B
		備品管理	・備品台帳が整備されている。	・備品台帳により、消耗品を除く備品管理をしている。 ・新規購入または廃棄に際しては随時台帳更新している。 ・経年劣化による更新等に関しては、施設組合と協議しながら進めている。	・備品台帳が適切に管理されていることを確認した。		B
		指定管理者が行う修繕	・指定管理者が行うべき修繕について、適正に実施されている。 ・修繕箇所について、随時、組合に報告されている。	・基本協定のとおり、管理施設・管理物品1件につき20万円未満の修繕(修理工房内の木工機材の消耗品部取替え点検整備、散水機、乗用芝刈り機等)について適切に修繕を行った。	・修繕について、適切に実施されていることを確認した。		B
経営状況に関する項目	経営状況	経理事務の実施状況	・収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	・月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。	指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには時間的制約があることから、専門部会を設けて評価を行った。10月1日に評価協議会委員(税理士)・所管課・指定管理者の三者にて会計処理評価部会を実施し、指定管理者の経営状況について評価を行った。概要は次のとおり。 指定管理者から、各収支に係る会計処理方法とその関係書類の保管状況及び令和2年度収支金額の全体説明と個別の各項目につき、説明を受け質疑応答した。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">評価：B</div>	
		収支の状況	・収支決算書と収支計画書とに大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因など。	・R2年度はコロナ禍の影響もあり、予算との大きな隔たりとしては、事業収入合計が予算の6割にしかならなかった。一方、支出も多くの費目で予算を割り込み、収支バランスを得ることができた。 ・多くが予算を割り込む中、許容範囲ではあるが、通信費が1割強の予算オーバー(約8万円)であるのは、コロナ禍の影響により電話や郵便などの連絡が例年より増えたためである。また、保険料も同じく1割強の予算オーバー(約4万円)は、クラブの新設にともなうボランティア増員によるボランティア保険の増加およびドローン保険の増加による。 ・コロナ禍により大型催事実施が難しく利用者数も落ち込んだが、連続講座(環境科学技術塾・環境映像クリエイター塾・里山ナイフメイキングクラブなど)実施回数を増やす工夫を施し、新しい手法にも取り組んでいる。	(1)収入と支出全体のバランスはとれており問題は無い。ただし、収入面で、講座講演会参加等(58.5%)と雑収入(68.6%)の両方が大幅に未達成であった。支出面は通信費、保険料等で計画を上回った部分もあるが、大半は計画の範囲内であった。また、支出の中で対前年度比大幅増加したものがあつたが、コロナ対応で新規のイベントを企画実施、その他対策に要した費用等である旨説明を受け、特に問題無しと判断した。 (2)実査については、①小口現金支払い②請求書による支払い③注文書発行(外注)による支払い④施設利用料収入⑤イベント等の収入について定められたルールに沿って処理されているかを確認した。特に見積、発注、納品、請求の各書類の整合性、そのチェックの実施状況及び金銭の出入金時のチェック(検印等)と入帳及び残高確認の有無を実査した結果全てルールに沿って適切に処理されていた。 (3)帳票類については、予算執行申請書、精算伝票、現金出納帳、見積書、注文請書、納品伝票、施設使用許可書、使用料収納報告書、イベント実施報告書等の保管状況を確認した。上記の各書類は適切に管理、保管されていた。 (4)指摘事項として、自主事業に係るイベントの報告書様式を、各イベント毎の計画と実績及び反省点等を一覧表にできれば、イベントの評価(参加者、収益、費用等)が見えて利用価値が上がると思われるので、検討、実行してもらいたい。		
		販売上の状況	A:350万円以上 B:250万円以上350万円未満 C:150万円以上250万円未満 D:150万円未満	・コロナ禍の影響が大きく、事業収入合計は1,857,284円であった。緊急事態宣言やまん延防止期間でも、関係者との調整や資料作り、研修など次の準備を進めた。持続可能な社会へ向けて、楽しみながら継続できる様な内容で身近にある再利用素材の活用や、地域講師からのアイデアを活かした講座の実施等様々な工夫(着物リメイクで日傘作り、あずま袋バンド作り)を施し、講座・ワークショップの参加や物販等売り上げ向上へ努力した。 併せて、京都大学や廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究会からの研究作業や広報教材制作作業も売上げに計上できた。			
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	利用者数	A:3万5千人以上 B:2万5千人以上3万5千人未満 C:1万5千人以上2万5千人未満 D:1万5千人未満	・コロナ禍の影響により、年間の総利用者数は、13,551人であった。 ・啓発に於いては、相手とのコミュニケーションが重要だが、コロナ禍に於いてさまざまな制約がかかる中、“展示の連携出前”という形で、6月に人と自然の博物館で写真展を、3月に豊能町立図書館で環境イラスト作品展・ふるしき展を実施し、利用者アップに努めた。 ・コロナ禍の影響がありながらも、新しい生活様式に対応した新しい環境啓発の手法(ブログでの情報発信、11月北摂里山の日 オンライン配信、12月環境科学技術塾基調講演会オンライン)を取り入れながら進めることができた。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、感染対策として利用人数の制限や利用者の考え方(不要不急の外出を控える)もあり利用者数は大幅に減少した。 ・新しい生活様式の中で創意工夫を凝らしながら事業運営に取り組んでいる。	【主な質疑】 組合への質問 Q.利用者数とファミリーフリーマーケットの参加者数における所管課評価をD評価としているが、厳しい評価ではないか。 A.利用者数とファミリーフリーマーケットの参加者数につきましては、これまで指定管理者からの事業報告値をもって評価しているところですが、コロナ禍で臨時休館や各施設の利用人数の制限といった対策を実施したことにより、報告値が大幅に減少していることは承知していますが、あくまでも事業報告値を評価指標と照らし合わせて評価したものです。	
		ファミリーフリーマーケット参加者数(4回合計)	A:6000人以上 B:4000人以上6000人未満 C:2000人以上4000人未満 D:2000人未満	・コロナ禍の影響により、6月、9月、3月のファミリーフリーマーケット開催は見送り、12月に屋外開催として1回だけ実施した。 ・12月のファミリーフリーマーケット屋外開催で、利用者数が647名であった。(※以下、12月開催に際しての事項) ・コロナ禍対策として、通常は1台運行の無料シャトルバスを2台に倍増し、乗車定員を半数、乗車時の消毒検温など、バス会社や警備会社と連携して感染症予防に努めた。 ・利用者は通常開催よりも半分以下に減ったが、検温・誘導などの感染症予防対策のためにスタッフは増やし、利用者に安心して楽しんでいただける、スムーズな運営が実施できた。 ・近隣のフリーマーケットが相次いで中止となる中での開催であり、例年以上にリユース家具抽選会に多くの利用があった。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、12月度のみの開催となり利用者数も通常の半数以下であったが、開催時には、様々な感染予防対策が施され安心して参加されているので、この事業が地域に浸透・定着していることが伺える。		
		利用者満足度・スタッフの対応	A:「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B:「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C:「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D:「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・スタッフの対応についてのアンケート(917名回答)において、「とてもよい」「よい」を合わせて97%の満足度となった。 ・あまりよくないと記載されたアンケートのコメント欄には、天体観望会の参加者でスタッフが来るのが遅かったと記載があった。研修室で説明した後に多目的広場へ移動した際に、色々な機材等の準備があつたため、少しお待たせした印象があつた。しかしながら、天体観望会は参加者満足度が高い講座として継続してきているので、いただいた言葉を真摯に受け止め、今回の反省点として連携企業とも情報共有した。引き続き地域企業や団体と連携して、より魅力的な講座としていきたい。	・アンケートを回収する事業を見直すことにより、昨年度より大きく上回るアンケート回答数であった。(前年度512名) ・施設利用者へのアンケートを通じ、「とてもよい」(72%)、「よい」(25%)の回答をいただいております、利用者から満足をいただいている結果と考える。		A
		利用者満足度・「施設見学や展示解説」、もしくは「講師やプログラム」の内容	A:「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B:「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C:「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D:「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・内容についてのアンケートにおいて、「とてもよい」「よい」を合わせて98%の満足度となった。 ・R2年度も夏休みのワークショップは高い満足度の回答をいただいた。他のワークショップも含め、常に利用者とのコミュニケーションを良好に保ち、どのようなアイテムや講座内容に利用者ニーズがあるかを見定めながら、毎年徐々に開催内容が進化している。講座の中で得られた特記事項等の利用者情報は、朝礼や全体会議およびスタッフミーリングリスト(ML)で情報共有し、職員一同でより良い施設運営に向けた改善や対策を実施している。	・施設利用者へのアンケートを通じ、「とてもよい」(71%)、「よい」(27%)の回答をいただいております、利用者から満足をいただいている結果と考えるが、安定的に継続して今後も利用者ニーズに合わせた創意工夫を実施されることを期待する。		A

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	施設見学サポート業務	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望内容に応じた柔軟な対応を心掛け、環境問題を利用者の「自分ごと」に意識できるような見学ガイドを実践している。 ・施設紹介動画だけでなく、子どもの年齢層に合わせて、ガラスびん3R促進協議会提供のDVD鑑賞、SDGsの解説等の工夫を施している。 ・利用者に伝わりやすいガイドを目指して、日々情報の共有・更新をしており、職員全員が見学サポートを行うに必要な基本知識を有している。 ・廃棄プラスチック、ごみ処理不適合事象、海ごみ等の課題を示し、一人ひとりの心がけによって、ごみやエネルギーの削減につながる自身の実践へ向けた簡単なエコアクション(風呂敷活用、マイボトル、簡易包装、生ごみの水切り、雑紙分別、リターナブルびん、廃電池の回収、小型不燃ごみの扱い等)の紹介も行っている。 ・職員が共有している「Q&Aノート」に、適宜お客様とのやりとりを記載し、朝礼での報告などにおいてタイムリーに情報共有している。 ・バーチャル施設見学を新たに構築し、施設のホームページやグーグルマップから体験できるようにした。これにより、ホームページへのアクセス数が前年度と比較して13.8%上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町(川西市・猪名川町・豊能町・能勢町)の小学4年生の社会見学として、9校が見学に来られた。 ・利用者に応じた柔軟な対応により、ガラスびん3RやSDGs等の取り組みを分かりやすく解説するような工夫が行われている。 ・ガイド等来場者へのわかりやすい説明や支援等を行うため、職員間での情報共有や質疑応答を通じて、より良いサービスの提供に繋げようとする努力されている。 	<p>指定管理者への質問</p> <p>Q. オンラインによる参加者の人数や、Web閲覧者の人数は13,551名に含まれているのか。</p> <p>B</p> <p>A. オンラインの参加者は含まれているが、Webの閲覧者の人数は含まれていない。今後は、実際の来場者数、Webの閲覧者数やオンライン参加者数などに整理して報告していきたい。</p> <p>Q. アンケートの回答数は記載があるが、アンケートを配付した総数はどれくらいであったか。</p> <p>B</p> <p>A. 把握できている配付枚数は973枚です。これまでは、アンケートを記載した人の中から抽選で記念品を渡していたが、アンケートに記載された全員に記念品を渡すように変更したことにより回答数が増えたと考えられる。</p> <p>Q. ウイズコロナに向けて、今後の取り組みとしてどのようなことを考えているのか。</p> <p>A. 今後は、オンラインなどインターネットを使って情報発信することが増えるので、例えば、講師がオンラインで配信する形式でも可能だと考えている。</p> <p>B</p> <p>Q. 環境科学技術塾では、具体的にどのようなことを教えているのか。</p> <p>A. 信州大学の教授にオンラインで参加いただき、科学技術教育の初歩的なこととお話いただいた。その後は、子どもたちが自分に合ったテーマを自由研究として取り組んでもらった。</p>	
		団体対応業務	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、地域内の小学校団体の利用は例年の3割に落ち込んだが、来館予定だった学校と個別に打ち合わせを行い、地球温暖化学習や廃材ワークショップなど、感染症リスクを最低限におさえた環境学習提案を行い、先生方の要望もいただき対応した。(実施9校、583名) ・学校、地域団体等からの予約受付及び見学サポートを適切に行う他、団体からの各種要望(体験、昼食場所、工作、滞在時間等)について柔軟な対応に努めている。 ・施設内で昼食を希望する学校や団体には、感染症予防のため、多目的広場や屋上庭園など屋外での飲食をおすすめし、併せて天然芝をはじめ本施設の魅力発信にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町は28校中9校が見学に来られた。各学校の要望に対し柔軟に応じるによりカリキュラムの設定を行い、選択枝の幅を広げる努力をされている。 	<p>Q. フードドライブについてもこの場所を拠点に取り組んでいるが、どのような取り組みを行っているのか。</p> <p>A. 構成市町の社会福祉協議会に連携しようとしたが、それぞれで取り組まれている。現在は、当施設から近い東谷地区にある団体に引き渡している。</p> <p>Q. ガラスびん3Rの取り組みについては、パンフレットなどを活用し啓発されているが、プラスチックについては何か取り組みをしているのか。</p> <p>A. これまでも、海ごみに関する紹介をしていますが、令和3年度の北摂里山の日のイベントで廃棄物問題になっている海洋プラスチックをテーマとしたオンライン講演会を実施する予定である。</p>	
		環境情報センター管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町の公立図書館との連携事業として、第3回読書感想文コンテストを実施した。予想以上、全国より81名もの応募があった。読書感想文は、ステイホーム環境での啓発催事として、ウイズコロナに適した啓発事業であることの証しであろう。 ・構成市町における地域組織や地域企業、一庫公園、一庫ダム、知明湖キャンプ場、学校教育機関との連携をはじめ、兵庫県立大学、兵庫県立人と自然の博物館など教育研究機関とも連携し、啓発事業にかかる連携窓口や調整役として機能している。 ・住友ゴム工業(株)の植樹維持活動(センター内植樹地)について継続協働し、今後の維持活動についても協議している。 ・廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会の事務局として、全国施設の運営改善へ向けた情報交流や研修活動の基幹的な役割を担っている。R2年度では、研究部会の活動もオンラインが中心となり、環境学習施設の新型コロナウイルス感染症対策についてオンラインでフォーラムを開催したり、WEB上で対策の実践事例を展示したりと、コロナ禍の影響に負けない運営活動を支援している。 ・環境学習施設の運営改善を目的とした環境情報センターの研究事業として、SDGs先進大学である京都大学(大学院地球環境学堂・浅利美鈴研究室)と一緒に全国の一般廃棄物処理施設の研究を継続している。オンラインでの発表や情報共有などにより、地域の人々とのつながりを大切にしたい事業展開の大切さを再認識し、質的向上をめざすなど、日々啓発施設の運営に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期や周知期間等の影響もあるが、新たな取り組みを展開し、幅広い世代へ環境啓発を行うため、より計画的、効果的な事業実施に向け、今後の更なる検討を期待する。 ・平成28年度から引き続き、廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会の事務局として、様々な環境関係団体との交流事業等幅広い取り組みをされている。 ・地域の様々な団体等と連携しながら、情報交換や協力等を通して、貢献を続けている。 	<p>Q. アンケートの回答数は記載があるが、アンケートを配付した総数はどれくらいであったか。</p> <p>B</p> <p>A. 把握できている配付枚数は973枚です。これまでは、アンケートを記載した人の中から抽選で記念品を渡していたが、アンケートに記載された全員に記念品を渡すように変更したことにより回答数が増えたと考えられる。</p> <p>Q. ウイズコロナに向けて、今後の取り組みとしてどのようなことを考えているのか。</p> <p>A. 今後は、オンラインなどインターネットを使って情報発信することが増えるので、例えば、講師がオンラインで配信する形式でも可能だと考えている。</p> <p>B</p> <p>Q. 環境科学技術塾では、具体的にどのようなことを教えているのか。</p> <p>A. 信州大学の教授にオンラインで参加いただき、科学技術教育の初歩的なこととお話いただいた。その後は、子どもたちが自分に合ったテーマを自由研究として取り組んでもらった。</p>	
		講演会、講習会、研究会等開催業務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のNPO組織(北摂里山文化保存会)をはじめ、地域の環境保全団体や地域のステークホルダー(一庫ダム、一庫公園、知明湖キャンプ場、能勢電鉄等)と共に、初の地域合同のオンライン催事”北摂里山の日2020”を開催した。ゆめほたるからは、廃棄傘で凧を作るワークショップ、施設紹介、里山保全活動をオンラインで紹介し、本施設の魅力を発信した。コロナ禍を逆手に、地域のステークホルダーが一体となって、新しい取り組みができたことは、今後の施設運営における一つの方向性として有意義であった。 ・次年度(2021年)から実施する、小学高学年から中学生向けの連続講座「環境科学技術塾」事前説明会を実施した。顧問には、日本を代表する技術教育の実践研究者である信州大学の村松浩幸教授にご就任いただき、説明会でオンライン特別講座を実施した。なお、連続講座の講師は、地域に在住のトップレベルのエンジニアが4名講師として参加いただき、カリキュラムから講習用プログラムや実験回路などは、すべて講師らのオリジナルで、参加者の習得レベルにあわせてカスタマイズな講座内容となる予定。(2021年8月現在参加者30組) ・コロナ禍の影響で、本年度の重要な催事が3月に集中した。地域限定版の獣害対策セミナー、共催の木質バイオマス研修会(知明湖キャンプ場)、特別催事「ステイナブル2021」における、マシンガンズ滝沢と考えるごみ問題(講演)および繊維リサイクル技術研究会(日本繊維機械学会)の講演と展示など、地域の自然環境の課題から地球レベルの環境問題までを、利用者自らが考え、行動変容へと繋げる重要な機会を提供できた。 ・おもちゃやベビー用品のリユース事業は、コロナ禍の影響で制限付で継続実施している。この問い合わせへの対応は、きめ細やかな対応(居住地を確認した上で、構成市町内のリユース事業やリユースショップ、ごみとして排出する場合はその分別方法のご案内など)を心がけ、コロナ禍であっても利用者へのサービス向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃやベビー用品のリユース事業が継続的に好評である。 ・周辺地域の団体と共に催事や講演会等の開催による環境啓発活動が継続的に実施されている。 ・新たな取り組みとして「環境科学技術塾」の事前説明会が実施された。次世代向けにより高度な学習の機会になることを期待している。 	<p>Q. フードドライブについてもこの場所を拠点に取り組んでいるが、どのような取り組みを行っているのか。</p> <p>A. 構成市町の社会福祉協議会に連携しようとしたが、それぞれで取り組まれている。現在は、当施設から近い東谷地区にある団体に引き渡している。</p> <p>Q. ガラスびん3Rの取り組みについては、パンフレットなどを活用し啓発されているが、プラスチックについては何か取り組みをしているのか。</p> <p>A. これまでも、海ごみに関する紹介をしていますが、令和3年度の北摂里山の日のイベントで廃棄物問題になっている海洋プラスチックをテーマとしたオンライン講演会を実施する予定である。</p>
		リサイクル工房活用業務	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により館内での調理関係の活動制限があったため、そばクラブやクッキングクラブの制作工房での活動は例年より大幅に減少となった。 ・修理工房では木工教室、レザーリメイク講座、制作工房ではエコクッキング、軽作業室では和布リメイクなどのエコ講座(ワークショップ等)を実施している。広く地域の方にご利用いただき、受講生の紹介により新たなアイテムの講座を開設した講師も誕生(着物で日傘作り、デコ巻きずし)するなど、地域からも熱い視線が注がれている。 ・木工教室は利用者のニーズに柔軟に対応でき人気講座となっている。 ・新たに、「ガラスRグループ」という、廃ガラスを活用した活動クラブが立ち上がり、廃びんのアップサイクルについて研究するとともに、廃ガラスで作った皿や箸置きなどの作品を受付カウンター付近の目につきやすい所へ展示し、廃ガラスの啓発に努めている。 ・令和元年からスタートしたクラフトバンド講座は、人気講座となりクラブ活動としての実施を検討中。 ・前項で説明した連続講座「環境科学技術塾」は、令和元年に誕生した環境科学技術クラブが主催する、自律的な講座であり、今後施設運営としてめざす、地域が主役となる施設運営のグッドプラクティスである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木工教室、レザーリメイク、エコクッキング、和布リメイク、クラフトバンドなどは大変人気があり、安定した開催となっている。 ・新たな団体が立ち上がり、自主的な活動に取り組もうとしている。今後、環境啓発活動の様々なアイデアやチャレンジに繋がるような活動として期待している。 	<p>Q. フードドライブについてもこの場所を拠点に取り組んでいるが、どのような取り組みを行っているのか。</p> <p>A. 構成市町の社会福祉協議会に連携しようとしたが、それぞれで取り組まれている。現在は、当施設から近い東谷地区にある団体に引き渡している。</p> <p>Q. ガラスびん3Rの取り組みについては、パンフレットなどを活用し啓発されているが、プラスチックについては何か取り組みをしているのか。</p> <p>A. これまでも、海ごみに関する紹介をしていますが、令和3年度の北摂里山の日のイベントで廃棄物問題になっている海洋プラスチックをテーマとしたオンライン講演会を実施する予定である。</p>	
多目的広場活用及びフリマ開催業務	<ul style="list-style-type: none"> ・学校団体やスポーツ団体利用に向けて、良好な芝生管理に努めた。 ・好評の天体観望会を夏だけでなく、冬にも実施し、夜間の多目的広場利用に努めた。 ・12月に多目的広場を利用したフリーマーケットを実施した。換温や誘導などコロナ対策のため人員を増やしたり、バスの台数を増やすなど、対策を万全に安全に実施することができた。 ・週末利用の少年スポーツ団体やサイクリングイベントの大会実施の際には乗り合わせでの来場やごみ持ち帰りなども含め、施設を安全に、環境に配慮してご利用いただくよう協力していただいた。R2年度は週末の天候に恵まれ、概ね予約通りご利用いただけた。 ・春と秋の屋外フリーマーケットや里山まつりなど設置趣旨に沿った多目的広場の活用を準備していたが、コロナ禍の影響で中止を余儀なくされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に行われたフリーマーケットでは、コロナ対策を万全にすることにより、開催することができた。今後も、万全の対策を講じた上で、フリーマーケットや里山まつり等の催事を行い、多目的広場の活用を通じた環境啓発に取り組んでもらいたい。 ・催事や各団体でのイベントに対し、乗り合わせでの来場やごみの持ち帰り、レジ袋削減に向けたマイバック持参のお願いを行う等、施設の安全や環境配慮の取り組みに努められている。 	<p>Q. フードドライブについてもこの場所を拠点に取り組んでいるが、どのような取り組みを行っているのか。</p> <p>A. 構成市町の社会福祉協議会に連携しようとしたが、それぞれで取り組まれている。現在は、当施設から近い東谷地区にある団体に引き渡している。</p> <p>Q. ガラスびん3Rの取り組みについては、パンフレットなどを活用し啓発されているが、プラスチックについては何か取り組みをしているのか。</p> <p>A. これまでも、海ごみに関する紹介をしていますが、令和3年度の北摂里山の日のイベントで廃棄物問題になっている海洋プラスチックをテーマとしたオンライン講演会を実施する予定である。</p>			

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価		
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	屋外観察会 開催業務	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業との協働事業5年目となる「天体観望会inくにさき～夏の風物詩ペルセウス座流星群～」を実施し、人気講座となっている。 ・新たに、猪名川町の猪名川天文台運営委員会とも連携して冬の天体観望会も実施し、人気を博した。 ・コロナ禍で、5月野鳥観察会と6月ゲンジボタル、ヒメボタル観察会は中止となったが、6月～7月に人と自然の博物館でリスの動画と写真展を実施したり、ブログ上で国崎のモリアオガエルの産卵シーンの動画を配信するなど、北摂地域や国崎周辺における里山の動植物や自然の魅力発信に努めた。 ・ブログ上で『くにさきの森より』というタイトルで、屋上緑化や里山の植物や昆虫等について通年で施設の魅力や情報発信に努めた。 ・年度当初にはコロナの影響により実施できなかったが、エドヒガンの開花が例年より早まったこともあり、年度末にエドヒガン林散策ガイドをゆめほたる里山クラブが実施した。 ・コロナ禍で制限のある中ではあるが、当施設の恵まれた自然環境を十分に活用すべく、創意工夫をこらした事業展開に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天体観望会やエドヒガン林散策ガイド等は、定期的に開催されている。 ・ホテルの観察会は中止となってしまったが、新たな取り組みとして国崎周辺の動植物や昆虫といった自然の魅力を発信し、啓発活動に努めている。 	B	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数とファミリーフリーマーケットの評価については、所管課評価だけを見るとDと記載されているので、補足のコメントを記載したほうがよい。 ・コロナ禍により当初予定していたイベントなどが中止となったが、代替のイベントや新たな企画を提案するなど啓発活動を頑張っておりと見受けられる。 	
		貸館業務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種クラブ員や利用者が使いやすいように、コロナ対策、整理整頓、コミュニケーションに努め、レポートに繋げている。 ・平日利用の学校団体などへ、昼食会場や自由遊びなどで天然芝の多目的広場利用を誘導するなど、施設の魅力普及に努めている。 ・土日祝休日の視聴覚室・講座室利用時には、事前説明や掲示物等により、セキュリティエリアへの侵入防止へのご協力依頼等、施設全体が安全にスムーズに管理できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染症の影響や天候等に左右され、利用回数や利用人数は減少したが、そうした状況の中でも、多目的広場は、施設への滞在時間が長い団体に対して、昼食会場などでの利用の誘導が行われた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャル施設見学について、実際に見てみたが、施設内にあるブースを歩き回るだけとなっているので、巨大施設でゴミ処理作業している様子などの動画をリンクさせるようにすれば、もっと良いものになるので検討してもらいたい。
		ボランティア 運営業務		<ul style="list-style-type: none"> ・第1期～3期の里山保全技術者養成講座修了生がゆめほたる里山クラブ員として敷地内の里山保全活動を行っている。自然学習ゾーン、鹿柵の点検補修だけでなく、除間伐材を活用して手作りサインの設置や、勉強会なども実施している。クラブ員の意見を取り入れながら、活動内容を構成することにより、主体的な活動につながっている。 ・ボランティアの中からリーダー的な役割を担うメンバーも育ち、益々地域ボランティアが活性化されている。 ・里山林の裸地化や土壌流出などを防ぐために、ゆめほたる里山クラブ・施設組合・啓発施設の3者で協働で試験植栽した「ミツマタ」のメンテナンスに努めた。施設組合と協働で水やり作業等を行った。 ・ボランティアのゆめほたるクラブには、現在111名が登録されている(令和3年3月31日時点のボランティア保険加入数)。 ・環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。 ・里山ナイフメイキングクラブ、環境科学技術クラブ、ガラスRグループ等の活動が活発化している。新たな視点で協力いただける講師が増えている。 ・12月の屋外フリマに於いてはコロナ対策のためにスタッフの人員増が必要となったが、ゆめほたる里山クラブのメンバーに強かにサポートしていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめほたるクラブの登録者数は、毎年横ばい程度で安定的に推移している。 ・ボランティアの中からリーダー的な役割を担う人材が育ち、地域ボランティアや団体の活動が活性化している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックについて、グローバルな視点ばかりでなく、地域レベルの取り組みをすべきである。 ・国が示している「2050年カーボンニュートラルの実現」に向けた働きかけや地球温暖化による大雨が多いことなど防災の面からも可燃ごみを減らすような啓発に取り組んでもらいたい。 ・地域の課題となっているテーマについては、解決に向けて継続して取り組んでもらいたい。
		「森の泉」 編集業務		<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の編集作業を行う「森の泉」は、1市3町の住民の皆様へ情報提供を行う重要なツールである。読者の視点に立ち、読みやすい・見やすい・わかりやすい紙面構成を心掛け、好評を得ている。R2年度は年間765通のアンケートハガキが届いた。前年度は722通、前々年度は715通。 ・各種講座案内と共に、施設見学、バーチャル施設見学、貸室、フードドライブ、ファミリーフリーマーケット、リユース家具、ベビー用品リユース、などをとりあげ、ゆめほたるのアピールと利用促進に貢献した。 ・9月号では食品ロスについての解説、1月号ではリユースの紹介にSDGsマークを併記、3月号では4面の環境マンガをSDGsユーモアイラストへ切り替える等、SDGsの周知に貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい紙面構成やレイアウトを心掛けることで、「森の泉」の認知度上昇に貢献している。 ・広報編集に係るチェック体制をしっかりと整えられている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 以上、各評価観点にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答などを行い確認したところ、指定管理者及び所管課評価のとおりとし、総合的な評価指標は「B」に該当すると判断する。
		施設利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各貸室、多目的広場の利用状況(前年度対比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響に合わせて段階的に制限を設けながら、対策を施し、安心して利用していただける様に努めた。年間の見学・部屋利用・出前(展示)を合わせた総利用者数は、13,551人となり、前年度比は43.5%。各室利用件数が前年度比69.8%、各室利用人数が前年度比53.6%であった。 ・様々な制限の中ではあるが、修理工房の利用件数は前年比94.2%となり、木工教室や里山クラブ木工班の自主練など、限られた日数の中で活発な動きがあった。 ・多目的広場の利用に関して、利用件数は前年比94.4%、利用人数は前年比121.6%と好調だった。週末の天候に恵まれた点が大きいですが、日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行うだけでなく、芝生の状況と利用者の希望、及び駐車場など、様々な調整をしながら貸出業務を行い、良好に業務遂行ができた。 ・夏休みの人気講座「天体観望会」を継続している。駐車場がスポーツ利用と重ならないように時間帯を夜にずらして実施するなど工夫を施している。 ・小学校団体などへ昼食場所としての使用を誘導するなど、多目的な施設の魅力を広める努力を継続している。 ・地域の福祉施設が定期的に施設見学や展示見学に来られている。R2年度からは廃材を利用したバッグやちぎり絵などの通所者のエコな作品展示にもご協力をいただき、利用者サービスにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により半数以下となったが、限られた中で活動いただけるように努力されている。 ・啓発施設の自主事業と施設見学をうまく合わせながら、利用者の増加に繋げようと努力している。 	B	
		地域活性化、 地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化、地域貢献のためのイベント等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、地域と連携した活動(フードドライブ)も継続している。 ・11月に「北摂里山の日」と題してNPO法人北摂里山文化保存会や北摂地域や当該地域で活動している団体と一緒に、活動紹介等を行うオンライン催事を実施し、里山と地域の魅力発信に貢献した。主な団体は、公益財団法人地球環境戦略研究機関、(株)すみれ発電、一庫ダム、知明湖キャンプ場、里山ベースハナビ、トランジション川西、川西里山クラブ、北摂里山博物館運営協議会、能勢電鉄、コラッジョ川西サイクリングチーム、井筒塾など。 ・珈琲の楽しみ方教室では、コロナの状況で館内実施ができなかったため、能勢町のけやき資料館と連携し、屋外実施とした。 ・ゆめほたる講師とゆめほたるの様々な講座に参加している地域住民が主体となって実施しているトヨノつながるWEマーケットで国崎の里山除間伐材を展示資材として活用し、里山保全活動の周知に貢献した。 ・地域の課題の一つである獣害対策について、3月にセミナーを実施した。座学と現地での研修スタイルの講座とし、地域の困りごとの現状を探ると共に、専門家からのアドバイスをもらい、その後実際に現場の状況改善に至るなど、地域に貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取り組みを行う団体との連携や協力を通じて、地域との交流を図るとともに環境啓発や地域の魅力発信に取り組んでいる。 	B	
里山林維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林整備構想計画に基づく事業協力 ・里山保全技術者の養成・活用 ・里山林維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と12月に国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学術経験者や森林整備専門家などから、国崎の里山林保全についてのアドバイスを得た。 ・年間計画に則り、ゆめほたる里山クラブも交えて、里山林維持管理を行った。ゆめほたる里山クラブ員が主体となって、除間伐材の利活用方法について考え、実践した。R2年度は、林内へのベンチ3基の他サイン板や樹名札などの制作と設置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林の保全に関する助言等を学識経験者や専門員からいただき、今後の検討材料としている。 ・里山保全ボランティアも含め、里山林の維持管理を適切に実施いただいた。 	B			

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	市町施策との連携、協働、支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも施設見学ができるように、バーチャル見学のHPアップまでの段取りや調整、告知など住民への周知へ向けて貢献した。 ・国崎クリーンセンター内のごみ処理工程等を見学いただき、日ごろ迷われるごみの分別方法や生ごみ減量の工夫など、身近な人に伝えていただけるよう分かりやすいガイドに努めた。 ・コロナ禍で実施はかなわなかったものの、スペシャル見学や、ゆめほたる講座の開催などを提案した。 ・豊能町立図書館に於いて、2月から3月にかけて、風呂呂敷展と環境イラストコンテスト入賞作品展、エコ検定案内などの展示を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みとして、バーチャル見学ツアーをホームページに掲載し、啓発施設やごみ処理施設が分かりやすく説明されている。 ・構成市町のイベントに参加しながら、環境啓発に取り組んでいる。 	B
	その他改善努力	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減に向けた努力 ・収入増加に向けた努力 ・業務の内容・手法に対する改善努力 ・社会貢献に向けた取り組み、関係団体や地域等との連携を図る取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りのSDGs大型パネルを施設見学ガイドの際に活用し、食品ロスや海ごみ問題などグローバルな視点での環境問題に触れると共に、一人ひとりが実践できる事柄についてイメージしやすく、住民に分かりやすいガイドに努めた。 ・小学校4年生の環境学習の一助として、朝日新聞発行の環境学習資料「地球教室」を団体見学时に配布している。分かりやすくまとめられた資料は先生方にも好評で、事後学習に役立てていただいている。ゆめほたるとしては資料活用の報告を朝日新聞に行うなど送付部数を増やす努力を継続している。 ・環境学習に役立てるための情報収集を継続しており、無料ツールは取り寄せるなどし、経費削減に努めた。R2年度はガラスびん3R促進協議会と連携し、パンフレット配布とガラスのリユース、リサイクルについて紙芝居形式での解説を行い、意識向上と行動変容につながるよう努めた。 ・コロナによる講座中止等のテレフォロー時には次回の講座や興味のある講座情報等もご案内し、次の申込に繋げる様努めた。また、人数の少ない講座はテレフォローにより日程や時間をまとめるなど、より効率よく運営できる様に努めた。 ・施設見学者には全体のガイドの他、各アップサイクル品なども説明し、売り上げ向上につながっている。 ・物品庫や書庫、消耗品や備品等は整理整頓し、業務効率化に努めている。 ・名刺や社内資料、アンケート用紙、ワークショップの材料などは可能な限り裏紙を活用し、ごみ減量に努めている。 ・継続してレジ袋削減の告知啓発や物販でのレジ袋削減、プラスチック製容器包装ごみの削減に努めている。 ・ゆめほたるスタッフが指導するワークショップやウィークエンドワークショップの材料は廃材や里山保全活動で出た除間伐材を中心に活用している。 ・消耗品は最後まで使い切り、電気製品などは修繕(リペア)して再利用を心掛け、経費の節減に努めている。 ・報道機関に随時情報提供を行い、事業の周知を図った。のせでんEvent Guide春秋号への情報提供。 ・大学研究機関、学会や研究会および地域からの広報(チラシやポスター制作等)により、年間50万円程度の売り上げを計上できた。 ・里山保全ボランティアのゆめほたる里山クラブが主体となり、催事「森遊び」と「エンドヒガン観察会」を実施した。地域住民に自然を知り、自然と親しむきっかけづくりを提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの内容を大型パネルで展示し、施設全体での取り組みについてPRを行うとともに、関係する資料等も展示することで、来場者に分かりやすく、見やすいように工夫されている。 ・啓発に活用できる資料を無料で取り寄せたり、廃材を活用した制作を行う等、環境配慮の工夫を行いながら施設の魅力発信を行うとともに経費削減に繋げる努力をされている。 ・ワークショップ等においても、廃材や里山保全活動で発生する間伐材を利用する等、資源の有効活用が行われている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により講座等が中止になった後のフォローをすることにより、今後に繋がる取り組みや、少人数の講座は効率よく運営するように取り組んでいる。 ・広報紙等で継続してレジ袋削減について周知を行い、催事等ではレジ袋削減に努めている。 ・マスメディアへの情報提供により、事業周知を図ることで、活動周知と施設周知が行われ、利用促進に貢献している。 ・公的な団体や近隣地域との連携により、収入増加に繋がる事業に取り組んでいる。 	A

評価：B

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本指定管理業務の趣旨及び目的は、単なる施設管理業務だけではなく、ごみ減量やリサイクル等の継続的な啓発活動を通じて、循環型社会の構築に寄与することにある。 ・指定管理者の令和2年度業務について、協定書及び事業計画に基づき、適正に業務が実施されているか、運営仕様書以上の啓発効果が上げられているか、協議会及び専門部会の計2回の協議の場をもって確認を行った。 ・管理体制面12項目については、「適正な人員配置」、「職員研修の実施」や「個人情報保護」などの評価観点に基づき、提出資料の精査及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、指定管理者の自己評価及び所管課評価のとおりであり、管理業務が適正に実施されていると判断した。 ・経営状況3項目については、専門部会を通じて提出資料の精査及び質疑応答による確認を行い、一部指摘事項もあるが全体的には収支の内容とその処理方法が適正に実施されていると判断した。 ・運営事業19項目については、各啓発事業実施状況やその成果について、指定管理者による説明及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、住民の環境意識を高めるため創意工夫された各啓発事業の実施、施設内外における地域との交流も含めた積極的な事業展開、各種団体や教育機関との連携によるネットワークの構築やその拡大など効果的な啓発活動を継続的に実施されていると評価した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響の中で臨時休館やイベントの中止により利用者数が減少するなど計画どおりに実施することが困難の中、代替イベントを素早く企画立案し実行するなど、全体としては頑張っており取り組まれている。
評価：B	<p>【今後の啓発事業の展開にかかる提言】</p> <p>平成21年の開館以降、ごみの減量や分別、リサイクル等を推進する循環型社会形成に根差したイベントや講座、ワークショップの開催を通じて啓発施設への利用者数の確保に向けて様々な工夫をされ、限られた予算や人材の中から事業を見直し、非常に努力をされていると感じる。今後も、新型コロナウイルス感染症など想定外の事象により、計画どおりの事業実施ができないことも考えられるので、オンライン向けのイベントや講座に切り替えていくことも必要と考える。また、これまでの日常に戻った時に、今まで取り組んできたイベントと新規に取り組み始めたイベントの全てを実施するのは不可能であるため、事業の取捨選択が必要と考える。</p> <p>引き続き、講座講師や指定管理者の中で今後を見据えた次世代の人材育成や試行錯誤が継続的に必要であると考えます。</p>

附帯意見	<p>環境施策への取り組みについては、構成市町の環境部局や教育委員会との連携が重要となってくるので、これまで以上に情報の提供やイベントなどへの積極的な参加に努めること。</p> <p>啓発施設の利用者数に関しては、人数のカウントの方法を整備したうえで、正確な数値を把握していくことが重要である。</p> <p>事業計画やイベントなどを見直す際には、十分な告知期間を設けたうえで集客の確保に繋がるような計画を立てる必要がある。</p> <p>バーチャル施設見学については、作業をしている動画を追加して、施設の状況がより分かるようにしてほしい。</p> <p>地域連携としては、自治会やまちづくり協議会といった地域のコミュニティを対象にして啓発活動や指定管理者が持っている知見をアウトリーチするような取り組みを考えてもらいたい。</p>
------	--

附帯意見の対応	<p>定例の構成市町環境部局との実務担当者会において、構成市町の環境部局や教育委員会への情報提供や情報収集を積極的に行い、連携できるように努めます。また、オブザーバーとしての会議参加ではありますが、全国の同等施設との連携で得られた知見を活かし、構成市町全体へ向けた施策的な提言もさせていただきます。</p> <p>ホームページ(WEB)閲覧者やオンライン講座や催事の利用者数については、施設組合さまと相談し、今後利用者人数のカウント方法を整備いたします。</p> <p>コロナ禍による中止事業の代替催事の計画立案は、時間的に余裕がなく、現在も令和3年度計画の見直しを行い、代替プラン策定の最中です。年度内という時間に限りのある状況ではありますが、できるだけ十分な告知期間を設けるよう努めます。</p> <p>次年度のホームページ更新業務の中で、予算にも限りがありますが、動画の追加も検討し、分かりやすい施設の情報発信に努めます。</p> <p>構成市町内が実施されている地域への取り組みと重複しないよう、上述の構成市町環境部局との実務担当者会にて相談しながら進めてまいります。また、アウトリーチに限らず、地域リーダー養成や地域のみなさまのポテンシャルを向上させる仕組みも検討してまいります。</p>
---------	---

- ＜評価指標＞
- ＜個別項目評価＞
- A：協定書、事業計画書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績(効果)があり、優れた管理・運営が行われている。
- B：概ね協定書、事業計画書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績(効果)があり、適切な管理・運営が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見受けられたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。
- ＜管理体制評価＞ ＜経営状況評価＞ ＜運営事業評価＞
- A：個別項目評価が全てB以上であり、かつAが過半数である。
- B：個別項目評価の8割以上がB以上である。
- C：個別項目評価に複数のCが含まれる。
- D：個別項目評価にDが1つでも含まれる。
- ＜総合評価＞
- A：総括評価にCが含まれず、かつAが2つ以上ある。
- B：総括評価が全てB以上である。
- C：総括評価にCが1つでも含まれる。
- D：総括評価にDが1つでも含まれる。